

【共通テスト模試の考え方・夏休みの計画の立て方】

Z会東大進学教室&Z進大学受験部の皆さん

Z会東大進学教室の宮原です。

7月に入り、暑い日々が続いていますね。先月も触れましたが、空調の効きすぎで体調を崩すことがありますので、対策として羽織るものを常備する・・・は必ず意識しておきましょう。

さて、今月はまず「**共通テスト模試の考え方**」について取り上げます。Z会東大進学教室では皆さんから模試の結果について共有いただき、今後の学習相談を承っておりますが、教室長から話を聞いていると、どうも皆さん共通テスト模試で苦戦している・・・ということを知ったので、今回話題として取り上げたいと思います。

まず第一に確認したいのですが、国公立志望者の方、共通テストを受験予定の方、ここまで共通テスト模試は受験しましたか？

共通テストは(センター試験時代から)一癖ある内容で「時間配分」が非常に厳しく、難関大を目指す皆さんにとって一つの大きなハードルになりえる試験です。この時間配分は、慣れの要素もありますので、対応を間違わなければ最終結果としてそれなりの得点に落ち着きはするのですが、何の対策もしていないと大惨事になりかねません(最終的に東大や京大に余裕をもって受かるような方であっても、最初は総じて時間配分で苦戦をしています)。よって、まずは実際に試験会場を通して受けてみて「時間が足りない…」と感じていただくのが第一ステップとなります。夏にもいくつか共通テスト模試が実施されていますので、まだの方はぜひ一度受験してみてください。

模試を受験したら、次のステップとしては、**その問題をもう一度解き直してください**。自分がどの選択肢を選んだかを問題冊子に残しておけば、自己採点はすぐできるはずですので、加えて(時間を多少使っても構わないので)一度丁寧に解き直すようにしてください。これは、時間配分という要素を取り払った際にどこまでできたかの確認をする意図です。その上で、以下、科目毎に注意点を述べていきます。

【英語筆記】

時間が足りなかった方、時間があっても選択肢で迷う方、いずれも知識系(語彙や文法など)が怪しいか、構文を取る意識が欠けている可能性があります(知識がある程度固まっている+きちんと精読の訓練を積んでいる方であれば、実はそこまで苦戦するレベルではありません)。なお、ここで注意すべきは「時間が足りないので速読の訓練をしよう…」と短絡的に考えないことです。精読できない方が速読を意識するとさらに内容把握がおろそかになりますので、要注意です。

【英語リスニング】

時間配分要素はなく、対策をコツコツ進められているかで決まってきます。点数が伸びないという方は毎日少しずつでも英語を聞く訓練を続けていくとよいでしょう。

【数学】

「時間をかけたら解ける」なのか「時間に関係なく解けない」なのかをチェックしてください。前者なら時間の使い方の問題ですので、どうしたら時間を短縮することができるかをこれから工夫していけば最終的には十分に対応できます(*英語筆記同様に、この段階で安易にテクニックに走るのは避けてください。形式に慣れてくれば時間は短縮できます。また、共通テストで躓いている方は確実に個別試験対策もまだまだ課題山積みのはずなので、まずは個別試験対策に注力でよいでしょう。共通テスト対策は2学期に入ってからでも十分対処できます)。後者の場合は、その単元の基本的な事項の理解に穴があるということを示しています。共通テストはもちろん、個別試験でも大きな穴となる可能性があるため、早急にその単元の基礎に立ち返るようにしてください。

【国語】

古文・漢文で時間があっても点数が伸びない方は、英語筆記同様に、語彙・文法・句型が怪しい可能性があります。特に最初の方の設問で落としている場合、課題は明確ですので、遅くともこの夏休み中にはカバーしておきましょう。一方で時間が足りなかった(=時間があればそれなりに取れた)という方は、「1つの小問にこだわって、大問を落とさない」という

ことを意識してください。国語は長い課題文・長い設問文・関連する複数の参考資料…等を読みこまないと答えが出ず、かつ一つ一つの配点が高い試験ですので、小さな失敗を恐れて、大問に取り組む時間がなくなり大失敗…が最悪のコンボとなります。今年から第3問として実用的な文章が入ってきて、時間配分が難しくなりましたので、基本的には第1・2・4・5問各20分、第3問10分を目安にサクサク解き進めることを意識するようにしてください。

また、現代文を中心に、選択肢を2択まで絞れたが外した…というケースも多くあると思います。この場合は解説を読んで、なぜその選択肢が○なのか×なのかをしっかりと理解してください。国語で意識すべきは、あなたがどう読んだか、ではなく、出題者がどう読んで、どう選択肢を作ったか、です(=出題者がルール)。解答の根拠を説明できない出題をすると全国の高等学校の先生から総スカンを食らうので、必ず出題者は本文中に根拠を見出して選択肢を作ります。ここの視点のコツを掴むとだいぶ安定してくるはずです。

【理科・地歴公民(共通テストのみで使う科目)】

現時点では個別試験対策中心に学習を進めているでしょうから、ここでいまいち得点できなくても慌てる必要はないです。ただ、私としては、共通テストのみの科目であっても、学校等を活用して、今から少しずつ対策を進めることをオススメしています。12月まで全く触れずに、最後一気に詰めるという方もいらっしゃるのですが、個別試験の配点が重い難関大学に現役合格するためには、なかなか時間が足りないので、(共通テストの目処を早めに立てた上で)少なくとも年内は個別試験対策中心とした方が無難かなと思っています。

【理科・地歴公民科目(個別試験で使う科目)】

共通テストのみ科目と比べると対策の優先順位は明らかに高くなります。共通テスト模試で点数が取れていないということはイコール知識が入っていないことを示していますので、まずは既習範囲で確実に得点できているかを確認します。1学期中の共通テスト模試の試験範囲は既習範囲という方がほとんどかと思しますので、ここで得点が伸び悩んでいるなら夏休みに確実に復習をしておきましょう。現役生の理科・地歴は(物理

の個別試験対策を除き)学習すればするほど比例して成績があがっていきますので、ここからコツコツと学習を積み上げていってください。

【情報】

あまり対策をしなくともそれなりに点数が取れる方と完全に苦戦をする方の2極化している印象があります。前者の場合は共通テストのみで使う地歴理科科目と同じ考え方でかまいません(=学校等をうまく活用して少しずつ対策を進める)。後者の場合は放置すると後で痛い目に合う可能性があるため、一旦夏休みに集中して取り組む時間を設けても良いと思います(もちろん個別試験対策が優先にはなりますが…)。

なお、今回総じて点数が振るわなかった方が、心配になって、夏期講習の共通テスト対策をたくさん受講しよう…と(保護者の方が)考えるかもしれませんが、現段階では慌てなくてもOKです。むしろ今は個別試験対策を優先しましょう。もし問題解き直しても全く歯が立たないです…という方がいらっしゃるなら別途教室に相談に来てほしいですが、大半の方は、まずは個別試験対策に注力すべきです(実際、個別試験対策の方があきらかに時間がかかりますので)。どうしても心配なら、夏休み中は、個別試験対策を優先してガッツリ組んだ上で、その隙間で少しずつ共通テスト対応も混ぜていく…で良いと思います。

続いて、7月5日Web返却予定の**駿台全国模試の結果の見方(=どこを確認すべきか)**について触れたいと思います。

大前提として、前回の情報提供をご覧になった皆さんは、すでに自己採点、課題の洗い出しはきっと出来ているはず…ですので、まずやるべきことは、実際の成績と照らし合わせて、課題の再点検、優先順位の見直しを行うことです。ここで、成績表で注目すべきところは、判定や偏差値ではなく、(今回の模試だと)表面右側の「**■4 設問別成績**」の欄です。得点、偏差値、全国平均点、全国平均点との差が項目としてあるはずですよ。

まずは、自分の得点と全国平均点との差を確認しましょう。志望校判定や偏差値はあくまで参考として、さらに踏み込んで、各教科の得点のうち、どの大問で取れていたか、どの分野が弱いのか、全体の平均点と比

べて自分がどうかを洗い出すことがポイントです。

全国模試の全国平均点との差異だと、いろいろな大学の志望者がいる中での平均なので、冠模試のそれと比べると参考レベルは落ちますが、駿台全国はハイレベル模試ですので、受験者のレベルも非常に高く、平均点は(その他の全国模試と比べると)かなり高水準にあります。

皆さんが目指す大学で考えると、平均点以下の大問＝差をつけられる可能性がある分野と考えられますので、補強が必要となります。駿台全国ではまれに平均点がものすごく低い大問があつたりしますが、基本的には全国平均との比較を見ることで、ある程度の参考にはなると思います。ちなみに私の視点からすると、仮にA判定となっていた方であっても、大問別で細かく見ると大小様々な課題が見つかります。判定は合格を保証してくれるものではありませんので、合格に一步でも近づくためには、判定をみて一喜一憂ではなく、しっかり大問別で確認をするようにしてください。

また、答案も戻ってくると思いますので、成績表からわかった全国平均点との差異があつた問題について、今一度解説から見直しをしましょう。例えば全国平均が比較的高く、自分ができていない問題は、いわゆる「取り間」と考えられますので、ここを落としているとかなり合格は厳しくなります。各大問の状況を見て課題の再点検、優先順位の見直しを行ってください。

その他、自己採点と実際の得点とのギャップのチェックもしておくといいでしょう。以前にお伝えしましたとおり、自己採点は正確性を求めるものではないのですが、自己採点の傾向が見えてくると、今後の過去問演習の際に参考になります。

まとめますと、模試が終わった直後に自己採点・自己分析をする、さらに成績表が返却された後に、自己採点と実際の得点とのギャップのチェック&大問別の全国平均との比較までできて…はじめて「模試をしっかりと活用できている」と言えます。次回以降、ぜひ意識するようにしてください。

なお、模試はあくまで「模擬」試験であつて、「弱点発見のためのツール」です。単に得点や判定を見て一喜一憂するのではなく、成績表をしっかりと読み解いて、反省点と収穫を明確にして、次の夏休みの過ごし方の材料としましょう。

最後に、夏期の過ごし方について「夏休みに意識すべきことは何か」という観点を絡めてアドバイスをしたいと思います。

「夏に意識すべきこと」は以下3項目となります。「①(大前提として)年間カリキュラムを意識する」「②1学期までに見つかった弱点の補強を意識する」「③各科目の学習バランスを意識する」の3つです。それぞれ説明いたします。

①年間カリキュラムを意識:以前にも触れましたが、東大進学教室をはじめ、どの塾・予備校とも夏期講習は年間のカリキュラムの一環となりますので、普段教室に通って対策を進めている科目については、継続講座を優先的に受講しましょう。ここをスキップすると、その科目の対策として塾予備校を選択した意味が薄れます。カリキュラムに乗って年間学習を進めると決めたなら、最後までそこはブレずにいきましょう。

②1学期までに見つかった弱点の補強:模試で発見した弱点を克服しようと思っても、GW後は祝日がないため、普段の学習に追われ、なかなか克服のための時間が取りにくいというのがよくある受験生の悩みです。よって、本腰入れて弱点の克服に取り組むのは、夏休みが最大の機会となります。夏休みの計画を立てる際には、この「弱点補強」にどう取り組むかを念頭に入れるようにしてください(夏期講習の講座選択の要素の一つとして、この弱点補強の要素が入ってきます)

③各科目の学習バランスを意識:学校がある期間は、毎週の時間割で授業があるので、自然に1週間の中でバランスよく各科目に触れることができますが、長期休み中は、各科目のバランスを取らないと、特定の科目に偏るor特定の科目に触れなくなる可能性があります。

Z会の夏期講習を見ていただくと、基本1講座連続する5日間の講座となっていますが、休室日も加えてその1週間は、予習復習を含めてそれなりの時間を(その週に)受講した科目に費やすこととなります。受講する講座のバランスを考えないと、例えば「気づいたら1ヶ月国語に全く触れていなかった!」というような事態に陥りがちです。

また、1タームにたくさん講座を取るのには、科目バランスの観点からも、そ

もそも予習復習含めてしっかり消化できるかの観点からも、避けた方が無難です。受講講座は、予習・復習・自学自習も含めて、科目バランスを意識して取るようにしましょう。

続いて、「夏休みの計画の立て方」についてもアドバイスします。以下は現役生のことを想定して書いてますので、もし高卒の方がいらっしゃるなら各教室にご相談ください。

A) 個別試験で必要な科目の計画を立てる。

まずは、個別試験で使う科目について、メインの学習手段の対策を第一優先で書いてください。

例えば東大進学教室等の本科で普段受講している科目は、先に述べたように、該当するクラスの夏期講習の講座を先に予定として埋めてください。通信教育の講座をメインにしている科目があるなら、定期的にその科目に取り組む時間を設けると良いです(ここについては、塾の講座のような5日間連続という縛りはありませんので、本科期間中同様に曜日・時間帯でバランスよく配置しましょう)。

続いて、学校の講習や補習など、動かせない予定があるなら、先に入れておきましょう。塾や予備校に通う予定があるなら、先に述べたタームを意識して、1ターム＋土日の1週間を1サイクルで考えると、計画を立てやすいです。

B) 「模試」の予定を組み込む。

続いて模試の予定を盛り込みましょう。模試はあくまで「その時点での力を試すツール」ですが、夏休みに弱点補強や未履修範囲のカバーに取り組むなら、この模試日程までにある程度カバーする意識で計画を立てていくとメンタル的にも良いでしょう。

C) 「1学期の模試で気付いたが克服を後回しにした弱点補強」を計画に組み込む。

夏は弱点補強の最大のチャンスです。各科目の学習バランスを見て、1週間の中で特定の科目が重なり過ぎないように弱点補強についても計画に盛り込んでいきましょう。Bにも書きましたが、可能ならば「模試の予

定までにある程度やりきる」ぐらいの計画を立てておくといいでしょう。

D)「本科受講していない塾や予備校の講習」については、この段階で初めて検討してください。ここまでの計画の中で、足りないところを埋めるイメージで考えるといいでしょう。

塾や予備校の講習は、普段受講している／いないに関わらず、目的意識をはっきり持って受講すべきです。例えば、「物理で波の問題がどうしても理解できないので、予備校の講習を活用して理解のきっかけを得る」など、弱点補強の一つの手段として考えるのが効果的な使い方だと思います。

私の進路指導の経験上では、一般的な方であれば(夏休み期間全体で)「(2時間講座で)10講座」が消化しきれぬ最大量だと思います。1週間で2講座×5期間ならば、自宅学習とも両立できるはずですが、これ以上は消化不良になるので、最大10講座を目安、という話は当時からしていました。

要は、弱点補強といった目的をハッキリさせて、必要な講座をしっかりと見極めて活用しましょう、という提案になります。自分の学習状況と、ほかの学習手段との兼ね合いを見て検討するようにしてください。

タダだから、安いから、友達が受けるからなんとなく…といった理由で、目的意識もなく受講するというのが一番避けたいところです。

以上を参考に、夏休みの計画を立ててみてください。皆さんにとって充実した夏休みになるよう、少しでも参考になれば幸いです。それでは、引き続き頑張ってください。